

実践事例

小倉百人一首を書こう

常磐大学高等学校 教諭 鈴木まどか

1. 単元名

「書道Ⅱ」仮名の書 創作－小倉百人一首を書こう－

○授業の特徴

- 国語・言語文化（古文）との教科横断型授業。

○本校の授業形態

- 教育課程の移行期にあたるため、第2学年で「書道Ⅱ」の授業を開講。(2023年度のみ)
- 授業は50分2コマ連続で、週1回。
- 1講座25名で、2講座開講。

2. 単元の内容・ねらい

- 百人一首の中から、自分の好きな和歌、書きたい和歌を選ぶ。
→書への関心・意欲・態度を育成する。
- 既習の仮名・変体仮名、散らし方、行書などをもとに創作する。
→創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫する能力を養う。
- 平安時代の文学に触れる。
→日本の伝統と文化に親しみ、意味や価値を考える。
- 仮名・変体仮名や行書を理解しているかの復習にもなる「かるた取り大会」を行う。
→鑑賞の能力を身につける。

3. 指導と評価の計画

○事前の取り組み

- 楷書・行書・草書・隸書・篆書を一通り学習した後、年度の最後に仮名を学ぶ。
- 教科書p.60-61「仮名一覧表」を見ながら、平仮名・変体仮名を一字ずつ丁寧に臨書する。(半紙4枚175字)
- p.62-63「連綿」、p.72-73「散らし方」を学ぶ。
- p.64-71「高野切第一種」「本願寺本三十六人家集」「針切」「曼殊院本古今和歌集」の臨書にも取り組む。書くのが速い生徒、ゆっくりな生徒、それぞれいるので授業時間内に進んだところまででよいことにする。
- p.76-77「創作－小倉百人一首を書こう－」に取り組む。

◎授業の流れ

時間

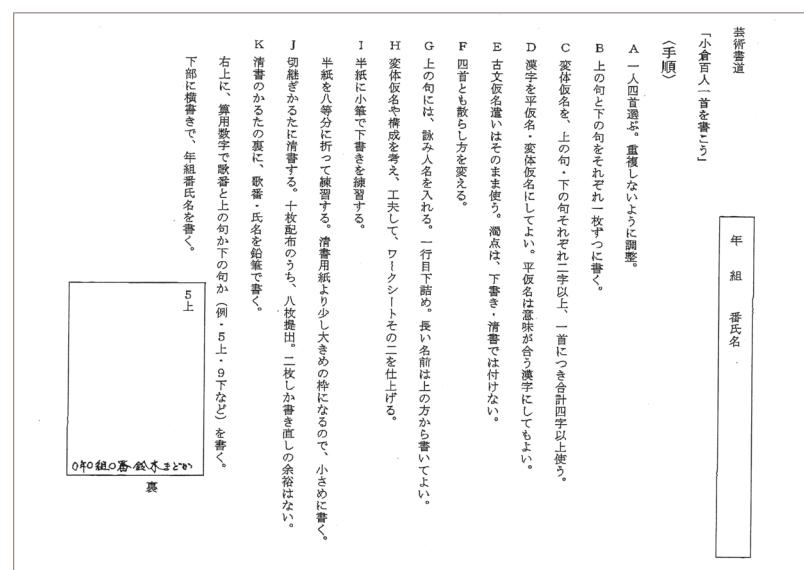
学習内容／評価

1.2

- (1) プリント「小倉百人一首を書こう」(手順 A～K) の解説を聞き、学習の見通しを立てる。
- (2) 書道室に備えられている『小倉百人一首』の本を読む。
 - ・本には和歌の意味だけではなく、詠み人、背景、修辞法、古典文法なども解説されているので、平安時代の風習や暮らし、詠み人の心情、古典文学、日本の文化について総合的に学び、鑑賞させる。
 - ・教科横断型の授業として、充分に時間を見る。
- (3) 好きな和歌、書きたい和歌を選ぶ。
 - ・25名で1人4首(合計100首)を担当する。重複しないように調整する。
- (4) 決定した4首の歌番・詠み人・和歌をワークシート①に書き写す。
 - ・古文の仮名遣い、漢字など間違いないようにさせる。
 - ・1首につき、上の句で2字以上、下の句で2字以上、合計4字以上変体仮名を使うように指示する。
 - ・どの字を変体仮名にするか決めたら、和歌の右側に字源の漢字を書かせる。
- (5) ワークシート①を提出する。

プリント「小倉百人一首を書こう」

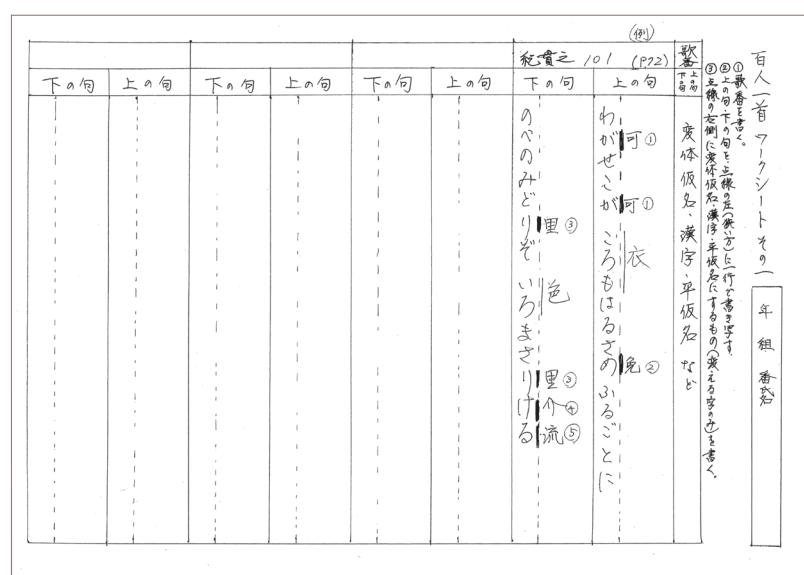
(手順 A～K)



《評価》 提出：ワークシート①

- ・和歌が間違ってないか。
- ・古文仮名遣いになっているか。
- ・変体仮名を4字以上使っているか。

※ワークシートや作品は、全て参考事例で、生徒作品ではありません。



3.4

- (1) ワークシート①と教科書 p.60 - 61 「仮名一覧表」をよく見ながら、そっくりの形に書く。漢字は既習の行書を生かし、ワークシート②に原稿を書いていく。
- 行書は右上がり気味にし、筆順通り部分的につなげればよいことにする。
- (2) 4首の散らし書きは、すべて違う散らし方にする。
- 教科書 p.72 - 73 「散らし書きの美」を参考にさせながら、各自工夫を凝らした創作をさせる。
- (3) ワークシート①②を提出する。

《評価》 提出：ワークシート①② 添削：ワークシート②

- ワークシート①と一致しているか。
- 仮名・変体仮名を「仮名一覧表」などを見ながら書いているか。
- 4首とも散らし方が違っているか。
- 漢字が行書になっているか。

ワークシート②：朱字で添削をした例

歌番	百人一首ワークシートその二 上の句	百人一首ワークシートその二 下の句
(100)	<p>古き 行 端 北 草 順 徳 良</p>	<p>里 聲 能 北 心 可 か 待 賢 内 院 無 川</p>
(80)	<p>羅 徳 北 支 支 徳 良</p>	<p>命 序 爾 命 命 命 命</p>
(25)	<p>葬 せ や も か 廣 と</p>	<p>藤 原 基 儀</p>
(74)	<p>山 お れ 山 人 と 御 激 の</p>	<p>歌 か 手 源 俊 朝 臣</p>



時間	学習内容／評価
5.6	<p>(1) ワークシート②と教科書 p.60 - 61 「仮名一覧表」を見ながら、仮名用半紙に小筆で下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 変体仮名にした文字を別の変体仮名に変更したい場合は、ワークシート①②を赤ペンで修正する。 <p>(2) ワークシート①②、仮名用の半紙に書いた下書きを提出する。</p>

《評価》 提出：ワークシート①②／半紙の下書き 添削：半紙の下書き

- ワークシート①②をもとに書かれているか。(仮名・変体仮名・字形・散らし方 など)

7.8	<p>(1) 百人一首用のかるた用紙（ここでは、切り継ぎがプリントされたかるた用紙を使用）に清書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒には 10 枚を配布し、4 首 8 枚を提出させる。 提出する用紙の裏にはシャープペンシルで、歌番や上の句・下の句の別、自分の名前を書かせておく。 <p>(2) ワークシート①②、仮名用の半紙に書いた下書き、清書したかるた用紙を提出する。</p>
-----	--

《評価》 提出：ワークシート①②／半紙の下書き／清書（百人一首用かるた）



時間	学習内容／評価
9.10	<p>(1) クラス（25人）を2グループに分け、かるた取り大会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上の句・下の句それぞれ1枚のかるた用紙（切り継ぎプリント）に書くので、1セット200枚になる。 2講座分で、小倉百人一首が2セットできあがる。

4. 生徒の振り返り

- 教科書から仮名文字や変体仮名など見つけて連綿させたり、散らし方を工夫して4首とも違う散らし方にしたりするのは難しく大変だったが、清書では練習通りに書けたのでよかったです。
- 教科書通りに仮名文字や変体仮名が書けたときは気持ちよかったです。
- 漢字を行書に直すのがすごく難しかった。
- どのように散らすか難しかったが、考えている時間は楽しかった。
- 空白の美を意識するあまり、文字が小さくなってしまった。
- それぞれの歌人の思いを想像しながら、連綿や散らし方を考えて作品にすることができた。
- 練習で使った仮名用半紙と清書をした切継ぎプリントの紙質が違って少しうまどった。
- 散らし方や文字の連綿を意識して書いても、わざとらしく見えてしまう難しさがあった。
- 変体仮名が読めないところがあって札が取れないことがあったが、狙いを定めて札を取れたので、楽しかった。
- 普通のかるたとは違って仮名文字で書かれているのでなかなか見つけられなかったが、新しい感覚でかるた取りができた。
- 自分の書いたかるたを取れたときは嬉しかった。
- 読みの難しい字がいくつかあったが、覚えている歌や読める字があって、20枚以上札を取ることができた。
- みんなの作品が見られて、「上手だな」「このように書けばよいのだな」など新しい発見があり参考になった。
- 変体仮名や連綿の工夫が凝らされていて、札を取るのが難しかったが、見ていて面白かった。和歌や字形を楽しく学べた時間だった。

最後に

- 国語・古典と連携した授業内容にしている。現在、本校においては古典の授業で小倉百人一首に触れる時間がほとんど取れていないのが現状である。その部分を書道において、少しでも補い、学習する機会が持てるようになることを意識している。
- 「書道II」で既習の行書の応用も、創作のポイントとしている。
- 50名分のワークシートなどを毎回添削するのは、大変に時間と労力がいる。しかし、添削することによって、仮名・変体仮名の間違いや字形が崩れて読めない文字などを極力避けることができる。総まとめの「かるた取り大会」では、ゲームを楽しみながら、作品を相互鑑賞することができる。